

企業名：NS ユナイテッド海運株式会社

レポート名：NS United Report 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

NS ユナイテッド海運株式会社（以下、同社）は「FORWARD 2030」と称した中期経営目標において、ESG 経営に主眼を置いて「収益性と社会性を兼ね備えた企業」を目標とした。この施策の中では 2023 年への目標として財務面では営業利益 100 億円以上、ROE10%以上、Net DER1.0 倍以下、非財務面では ESG 経営推進体制の強化、事業継続計画（BCP）体制の構築、鋼帆船プロジェクト、アンモニア燃料船プロジェクト、内航 LNG 燃料船という五つの項目を挙げた。「FORWARD2030」が昨年新規に発表した中期経営計画のためか、非財務情報について経過報告と簡単な事業説明のみとなっていたので、より具体的な達成目標とそれを成し遂げるために行われる事業について今年度の統合報告書だけでも読み手が理解できるような解説が必要だと考える。また、中期営業計画で示されている 2023 以後のビジョンについて、「2030 年のありたい姿」が「収益性と社会性を兼ね備えた企業」であることしか述べられていないので、今後どのような展開を同社が思い描いているのか読み取ることができない。10 年規模での長期的な目標とそこへの歩みを示すべきだ。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

「価値創造への取り組み」という項目があるが、内容は前述の「FORWARD2030」同様、2020 年度の概況と主要サービスの説明で終わってしまっている。より同社の強みにフォーカスしそれがどのように価値創造の原動力となっているのかを主張しなければ競争優位性が伝わらないだろう。同社は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で第 1 四半期は業績が低迷したものの、下期からは外航・内航海運事業ともに回復し 2020 年度の連結業績は経常利益 55 億円増となり前期比 1.0%の増益となった。このような回復力を生み出すことができるということは、非財務的価値があるはずなのでより強調していくべきだ。例えば、長年の海運サービス提供による経営基盤や顧客からの信頼について深く掘り下げるべきだ。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

同社は ESG 経営を中心とし、特に環境問題に重きを置いていることが本統合報告書から伺える。環境保全を推進することにより同社の企業価値「U ブランド」の向上を図っており持続性があると理解できる。まず、ESG 経営を支えるマネジメント体制を確立している。取締役会監査の元、ESG 総合委員会があり下には五つの委員会が設置されてい

る。次に、Eco 船、アンモニア船など性能の高い船舶使用、CO2 排出量という二側面から中長期的な目標として 2023 年、2030 年、そしてさらには 2050 年までの具体的な展望を示している。最後に、目標を達成するための環境方針を八つに分けて詳しく掲げている。特筆すべきは環境教育として社内・船員共に環境意識を向上させる取り組みを行っている点である。企業で取り組む環境保全において社内全体が環境に対する理解を深めていることは重要でありこれがないことは企業の信頼に寄与するだろう。不確実性の高い経営環境の中でこのように環境問題に重きを置いて取り組むことは企業の持続性への評価に繋がる。指摘するとすれば、統合報告書における最重要情報は環境の持続性でなく企業の持続性なので、環境問題に取り組むことがどのようにして企業の成長に繋がるかに言及できるとより良いと考える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

前述の環境教育に加え、研修の機会が充実している点で評価できる。OJT(On the job Training)を軸に海運実務講座、船舶代理店研修、乗船研修、海外実務研修、階層別研修、役職研修など階層や必要に応じ海上の実務と陸上の管理業務のどちらも経験することができ、スキルアップが見込まれる。しかし、「外国人船員の声」、「女性船員の声」の記述は非難せざるを得ない。この二つ以外で従業員によるインタビューはフレックスタイム制度や育児休暇制度に対する数行程度のものしかないのに対し、「外国人船員」と「女性船員」へのインタビューは各一ページずつ大々的に取り上げられている。外国人と女性という業界でマイノリティと言える存在を取り上げることで従業員の多様性をアピールする狙いであろう。しかし、彼らを役職や能力ではなく外国人と女性という属性のみで取り上げることは全く評価できることではなく、差別をなくそうという取り組みがかえってマイノリティに属する個人をその属性と強く結びつけて見てしまうというさらなる差別につながりかねない。このようなマイノリティに対する見解の浅い企業では自分の人的資本の勝ちを抗 JYプさせるのは難しいだろう。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体的に伝えたいことが散乱してしまいわかりにくくなってしまっているように感じたので価値創造の核となるような情報を中心に据えて押し出すような構成にできるとより良いと考える。例えば、FORWARD2030 における達成目標が一見わかりづらい。ページの四分の一程度の図の中に「2030 年のありたい姿」とあり、その下にこれより小さい字で「収益性と社会性を兼ね備えた企業」と書いてあり、これが目標だと思われるが全く伝わってこない。重要な要素の文字サイズが小さかったり細かい文中にしかなかったりするのわかりやすく簡潔な単語または一文で表すとより良いだろう。